

4.3.2 クマタカ

(1) 文献及び現地調査結果による現状把握

文献及び現地調査の結果、全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 62 メッシュであつた（図 4-16(1)）。このうち、繁殖情報（繁殖の可能性ありを含む）があつたものは 19 メッシュであつた。

営巣地の情報は 30 地点（18 ペア）あつた（図 4-16(2)）。主に北上山地の県北部、奥羽山脈の鳴子周辺から漆沢ダム周辺にかけて確認されており、都市部近郊の丘陵地でも営巣地が確認されている。

前回調査と比較すると、前回調査及び今回調査のいずれも情報があつたものは 34 メッシュ、今回調査のみ情報があつたものは 28 メッシュ、前回調査のみ情報があつたものは 29 メッシュであつた（図 4-16(3)）。今回調査で確認された場所は、前回調査と同様に北上山地と奥羽山脈、仙台市泉区周辺の丘陵地であり、今回調査で新たに確認された場所は、北上山地の北部及び南部、漆沢ダム周辺、七ヶ宿ダム周辺等であつた。主要な生息地に大きな変化がなく、今回調査で新たに確認された場所及び今回調査では確認されなかつた場所は近接していることから、生息状況には大きな変化はないものと考えられる。

このように、県内のクマタカの主要な生息地は北上山地と奥羽山脈であり、本種の希少性から判断して、これらの生息地は保全上重要と考えられる。また、生息が確認されていない阿武隈山地についても、周辺環境から判断すれば、今後の調査によって生息地が確認される可能性があると考えられる。

国内におけるクマタカの分布（図 4-16(4)）をみると、本種はほぼ全国に分布し、東北地方は本種の主要な生息地の一部となっている。宮城県の主な生息地となっている北上山地や奥羽山脈は、隣接する岩手県、秋田県、山形県、福島県の生息地と連続的に存在しており、宮城県も国内における主要な生息地の一部になっているものと考えられる。

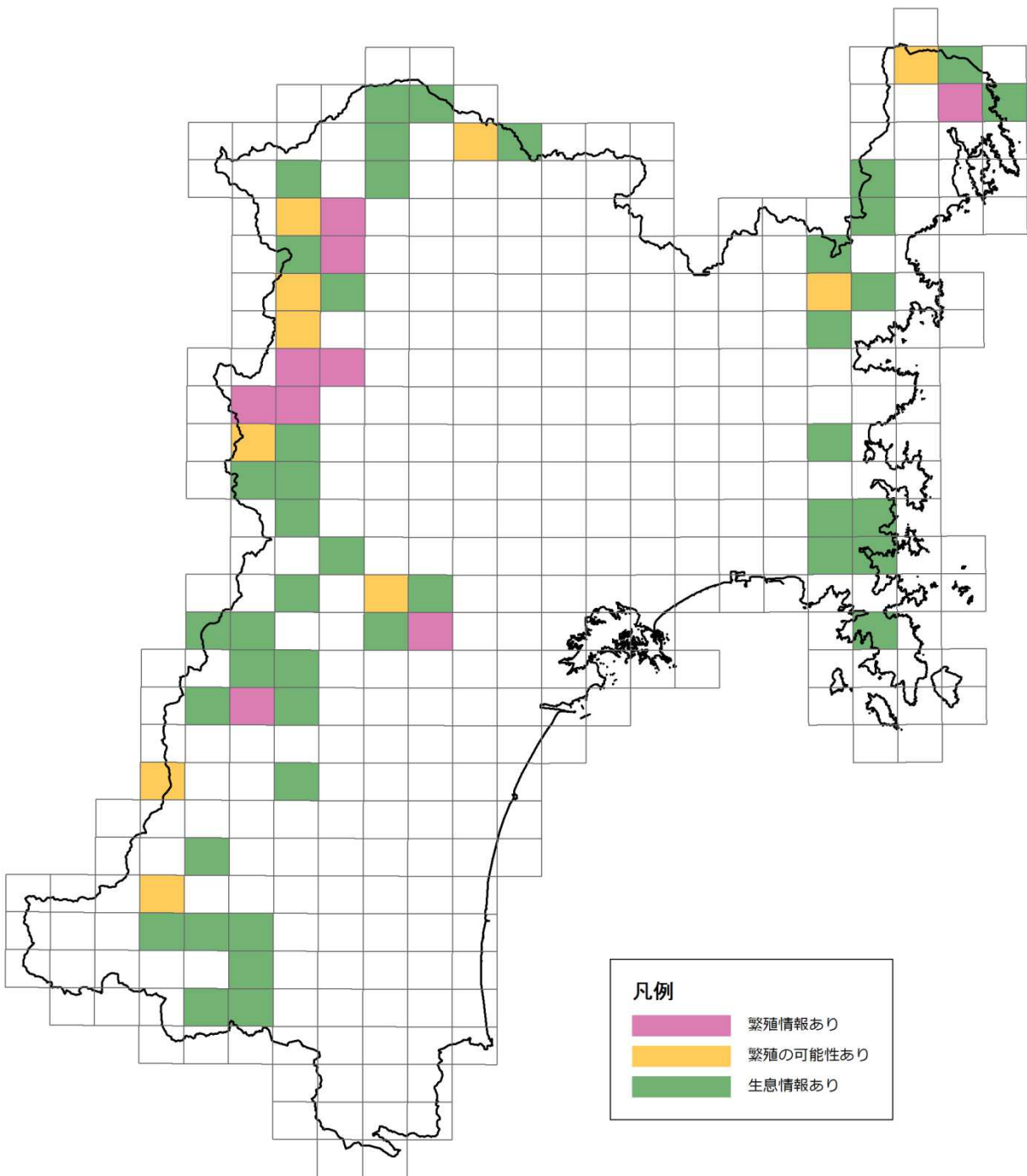


図 4-16(1) クマタカ：生息情報地域（文献調査結果及び現地調査結果）

種の保護の観点から非公表

図 4-16(2) クマタカ：営巣地情報の位置（文献調査結果及び現地調査結果）

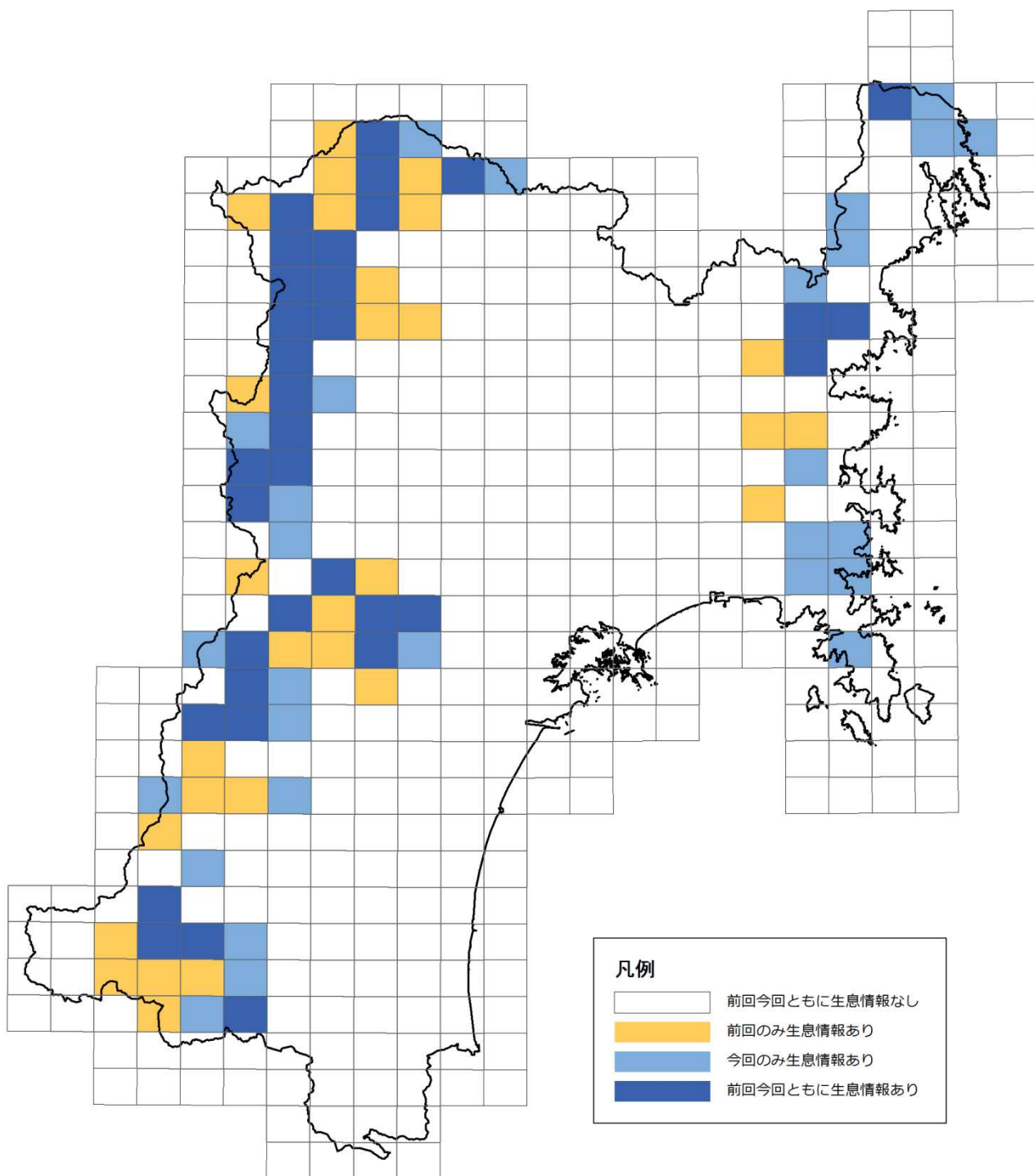
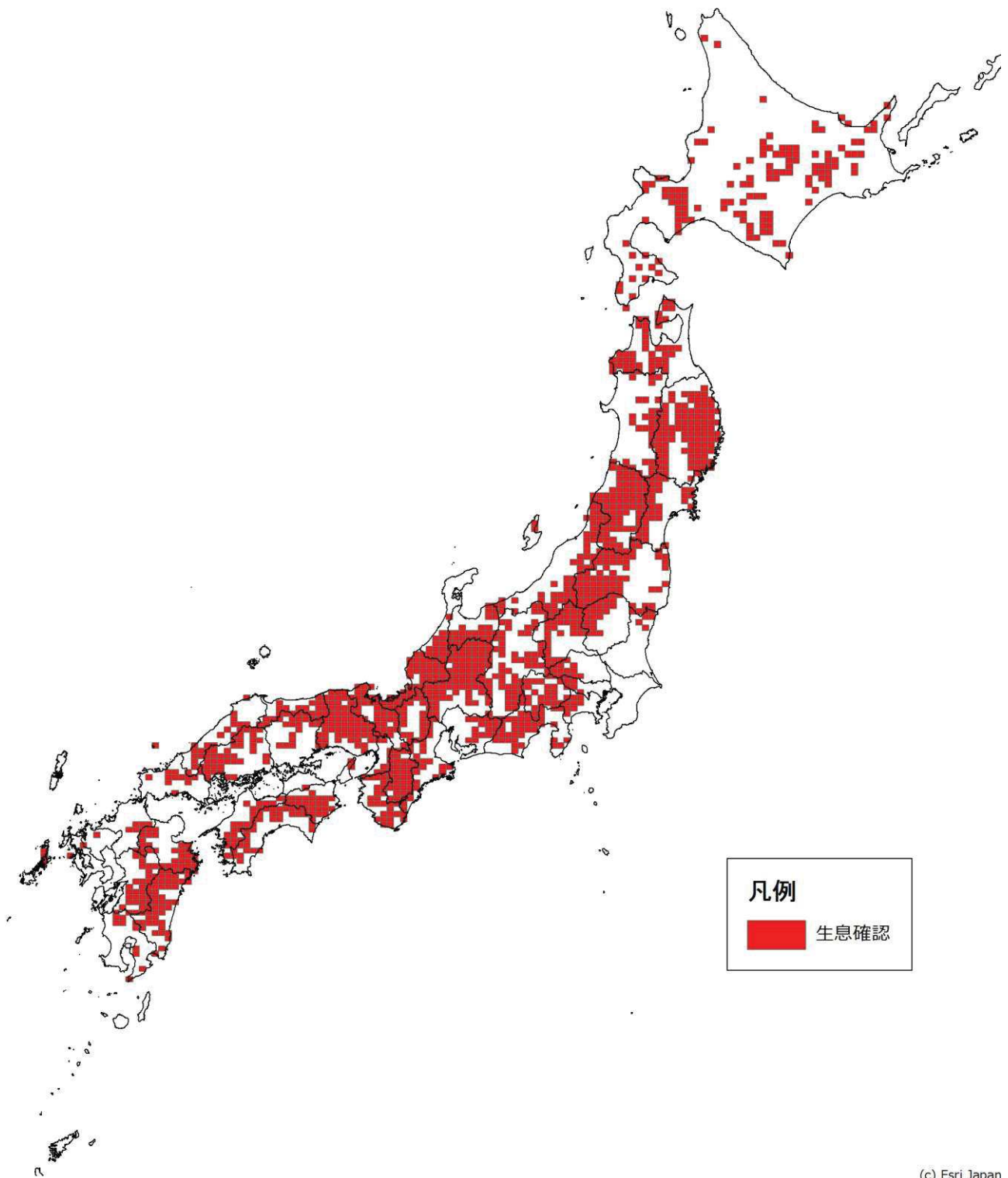


図 4-16(3) クマタカ：生息情報地域（前回調査結果との比較）



(c) Esri Japan
 ※白地図データ出典：国土地理院数値地図（国土基本情報）及びESRIジャパン 全国市区町村界データ

図 4-16(4) 国内におけるクマタカの分布

※ 図は日本猛禽類研究フォーラム (<http://raptorforum.eco.cocan.jp/>) の「イヌワシ・クマタカ全国生息状況二次メッシュデータ」より作成。

(2) 詳細な生息環境分析

(ア) 生息適地の抽出

生息確率の分布図を図 4-17 に、生息適地を図 4-18 に示す。また、文献調査及び現地調査で得られた生息情報と生息適地を重ね合わせた結果を図 4-19 に示す。

生息適地として抽出された主な場所は、北上山地や奥羽山脈、福島県境に近い阿武隈山地であった。

文献調査及び現地調査で得られた生息情報と抽出された生息適地を比較すると、北上山地や奥羽山脈では、生息情報と生息適地が大部分で重なっていた。一方、阿武隈山地では、生息適地に該当しているものの、実際の生息情報は得られなかった。

なお、文献調査及び現地調査により確認された営巣地情報と抽出された生息適地を重ねると、営巣地 30 地点のうち、27 地点が生息適地と重なっており、生息適地としては妥当であると考えられる。

(イ) ペア数の推定

ペア数を推定した結果、県内に生息するペア数の上限は 196 ペアとなった。この結果は、クマタカが生息可能な場所のすべてに営巣地があり、そこに生息しているペアがいると仮定した場合であるため、実際に県内に生息するクマタカのペア数は、この値以下と考えられる。

(ウ) 分析結果の考察

平成 9 (1934) 年度から、環境省、経済産業省及び国土交通省 (林野庁協力) が実施した希少猛禽類調査 (イヌワシ・クマタカ) の結果 (図 4-16(4)) によると、国内に生息するクマタカの最小推定個体数は $900 \text{ ペア} \times 2 \text{ 羽} = \text{約 } 1,800 \text{ 羽}$ とされている。その結果を用いて県内の最小推定個体数を単純に按分して求めると (県内 47 メッシュ / 全国 1,402 メッシュ $\times 900 \text{ ペア}$)、約 30 ペア (約 60 羽) となる。一方、今回の県内におけるペア数の分析結果では、上限数として 196 ペア (392 羽) と推定された。県内に生息するクマタカの個体数は、おおよそこれらの結果の範囲に収まると考えられるが、推定の幅が広く、生息実態を把握するためには、さらなる情報収集が必要であると考えられる。

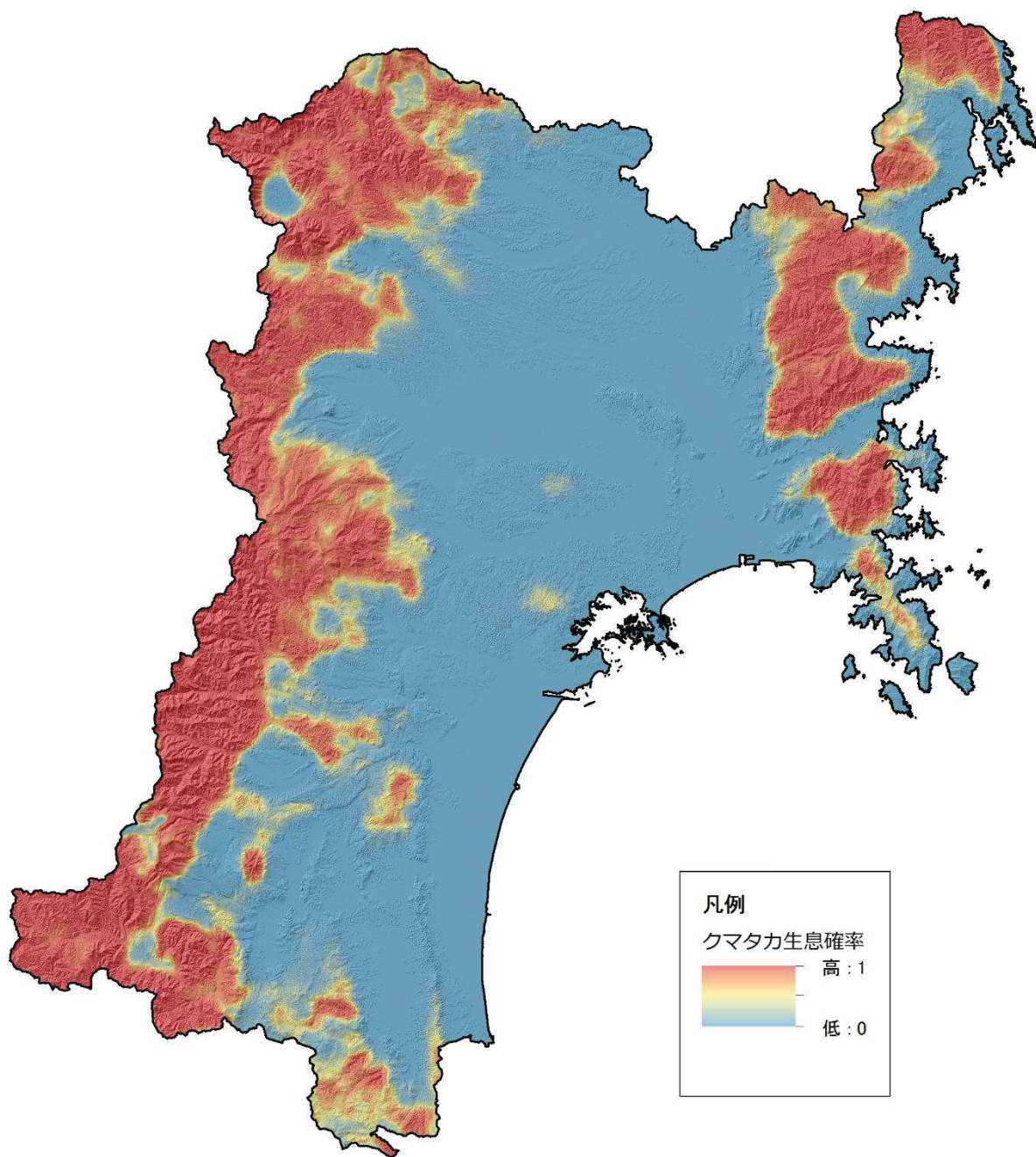


図 4-17 クマタカの生息確率の分布

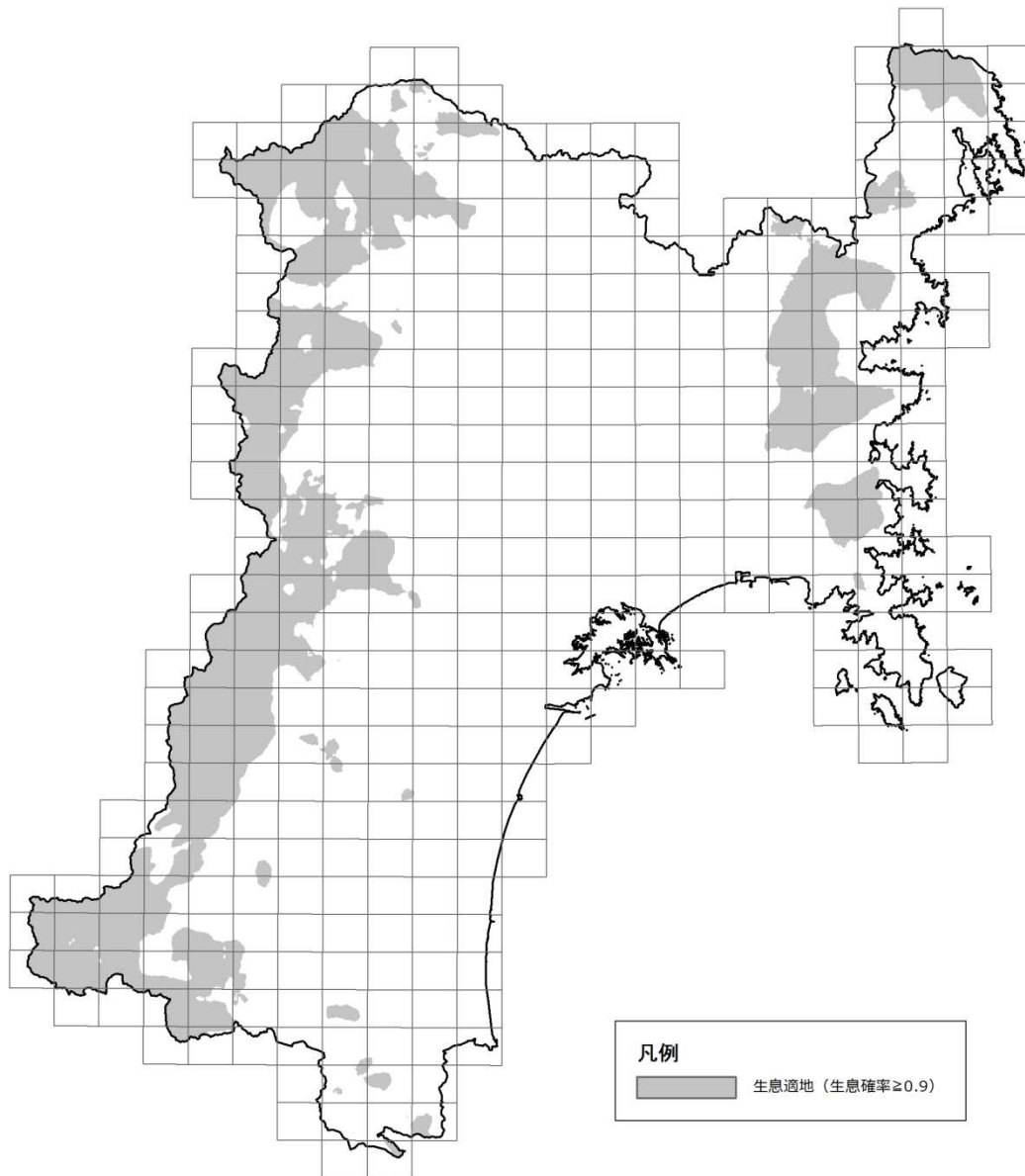


図 4-18 クマタカの生息適地



印刷しない

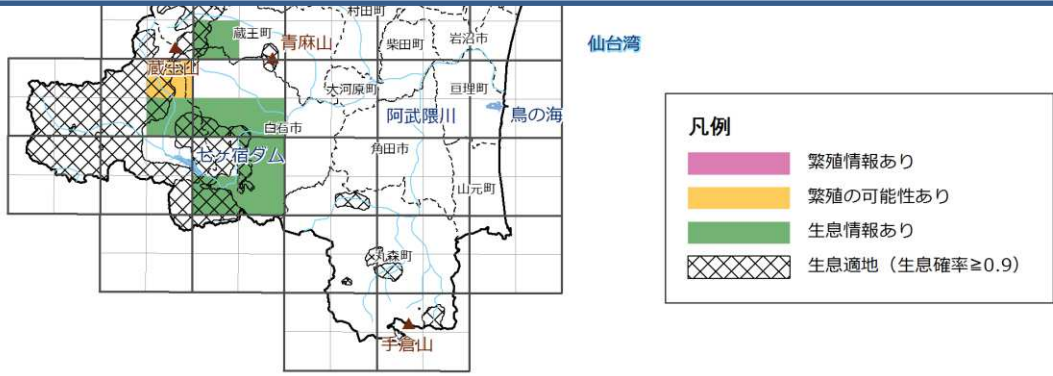


図 4-19 クマタカ生息情報と生息適地の重ね合わせ